

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **105** 号

平成30年 4・5・6月



重要文化財 鼉太鼓(左方・龍) (奈良・春日大社)

特別展

創建1250年記念特別展

国宝
春日大社のすべて

4月14日(土)～6月10日(日)
東・西新館

特別展
(予告)

修理完成記念特別展

糸のみほとけ

一国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏一

7月14日(土)～8月26日(日)
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち

通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器

通期開催
青銅器館

創建1250年記念特別展

国宝 春日大社のすべて

4月14日(土)～6月10日(日)



●金地螺鈿毛抜形太刀 奈良・春日大社 (展示期間: 4月14日～5月13日)

上: 佩表 下: 佩裏



金地螺鈿毛抜形太刀 復元模造 文化庁 (展示期間: 4月14日～5月13日)

上: 佩表 下: 佩裏



◎地藏菩薩立像 奈良・伝香寺

奈良時代の神護景雲二年(七六八)に創建された春日大社は、本年、創建から数えて一二五〇年を迎えます。本展覧会はこれを記念し、「春日大社のすべて」というにふさわしい規模と内容で、春日大社の悠久の歴史と、春日信仰の生み出した祈りの美を紹介するものです。

平城京の鎮護として創建され、藤原氏の氏社として発展した春日大社は、その後神仏習合思想の展開の中で藤原氏の氏寺である興福寺とも結びつきを強め、その信仰は朝廷から村落に至るまで、大きく広がって行きました。

本展覧会では「平安の正倉院」と形容される春日大社に伝来した、国宝にも指定される神宝や社宝の数々を一堂に集め、華やかな王朝美の世界をご覧いただきます。また春日大社の創建に関わる遺例や、春日信仰を反映した造形作品を通じて、長い歩みと豊かな信仰世界を感じ取っていただければ幸いです。

会場を一步出ると、博物館の敷地の中に春日東西塔の礎石が遺り、すぐ隣には春日若宮おん祭で若宮神が遷座する御旅所の芝が広がっています。この機会に、春日大社の故地でもある当館で、「春日大社のすべて」を体感してください。



鹿座仏舎利 奈良・春日大社



●若宮御料古神宝類 銀鶴及磯形 奈良・春日大社



○春日龍珠箱 外箱蓋裏 当館（展示期間：5月8日～6月10日）



●海獸葡萄鏡 千葉・香取神宮

修理完成記念特別展

糸のみほとけ —国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏—

7月14日（土）～8月26日（日）

平面に表されたほとけの像といえば、多くの方は仏画を思い浮かべ
ると思います。では、綴織の仏像（織成仏）や刺繡の仏像（繡仏）は
ご存知でしょうか。

飛鳥時代から奈良時代にかけて、織成仏や繡仏は堂宇の本尊ともされ
る重要なほとけでした。今日に遺る天寿国繡帳（国宝、奈良・中宮
寺）、綴織當麻曼荼羅（国宝、奈良・當麻寺）、刺繡釈迦如来説法図
（国宝、当館）は、その隆盛のさまを伝えていきます。中世以降、故人
の追善など個人の信仰に基づく繡仏が数多く作られました。中には人
の髪を繡い込んだ繡仏も見られます。一針ごとに繡い進める行為が故
人を偲ぶ想いにつながったのでしょうか。

この展覧会は綴織當麻曼荼羅の修理完成を記念して開催されるもの
で、織成仏と繡仏の代表作品を一堂に会する試みです。



●天寿国繡帳（部分） 奈良・中宮寺

文化財の健康診断

当館学芸部保存修理指導室長

鳥越

俊行

博物館では、今に伝わる文化財をこれからも伝えていくために、文化財の調査や修理などさまざまな取り組みを行っています。日本の文化財は脆弱な素材でできていることが多いため、定期的に状態を確認し、必要に応じて修理することで後世に伝えてきたのです。私たちが健康を維持するために定期検診し、必要なら治療するのと似ていませんか。

文化財の状態を調べるには、知りたい目的に合わせていろいろな方法や装置があります。ここでは人間の健康診断でも使われるのと同じX線を用いる調査についてお話しします。病院では、人間の体の中を知るためにレントゲン撮影（X線透過撮影）を行います。レントゲン撮影の装置はほとんどの病院にあり、人への影響もわずかであることから一般的に行われています。撮影した画像は、立体を平面に映すため情報が重なることから、角度を変えて複数撮影することがあります。レントゲン撮影では判読の難しい場合や詳細な観察が必要な場合は、X線CT撮影などを行います。

X線CT（コンピューター断層撮影）とは、X線を用いて三六〇度方向から対象物の画像を取得し、X線の透過度をコンピューターで解析して対象物を立体表示するものです。人間の装置では、輪になった機械の間をベッドに寝た人間が通過する間に撮影しており、得られた情報から、病変や内臓脂肪の様子などが視覚的に把握できます。

文化財の分野では、医療用の装置が実用化されてほとんどして調査に用いられましたが、調査に時間がかかることや解像度があまりよくなかったことなど

から、一般的に用いられる装置とはなりません。二〇〇六年に九州国立博物館へ導入されたX線CT装置は、三〇cmの大きさの文化財を一〇分程で測定できることから、彫刻、漆工、陶磁や金工などの工芸品、出土した考古資料などの調査に普遍的に用いられるようになりました。

当館でも二〇一七年春にX線CT装置が導入され、所藏品や修理作品、所有者の同意が得られた文化財について調査を進めています。人間の健康診断と同様に、断面や内部が可視化される利点は大きく、特に木彫像では構造、制作技法、納入品、虫損や修理歴など外観から判読の困難な多くの情報が得られます。当館所蔵の中国古代青銅器についても調査を進めており、鑄造技法や破損部の修理について新たな知見が得られました（図1）。

このように、文化財も健康診断して状態を維持しているのです。健康診断の過程で新たなことが判明することもありますので、また報告をする機会もあると思います。これからも当館の活動にご期待ください。



図1 中国古代青銅器 罍 (Wine warmer) とCT画像 (亀裂や修理箇所が判明)

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

3月27日(火)～

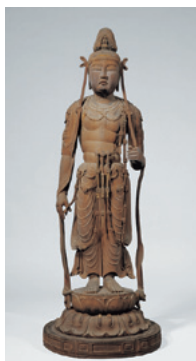
【彫刻】

【第1室】

如来立像
当館
蔵王権現立像
当館
広目天立像
当館
伽藍神立像
当館
毘沙門天立像
当館
南無仏太子立像
当館

【第2室】

獅子
当館
獅子
当館
観音菩薩立像
文化庁
弥勒菩薩立像
室生寺



◎弥勒菩薩立像 室生寺

◎観音菩薩立像

細見美術財団

【第3室】

宝冠阿弥陀如来坐像
安楽寿院
阿弥陀如来坐像
当館
阿弥陀如来坐像
金剛寺
阿弥陀如来立像
当館
阿弥陀如来立像
個人
阿弥陀如来立像
個人

【第4室】

菩薩坐像
待者坐像
天部坐像
薬師如来坐像
◎文殊菩薩坐像

【第5室】

誕生釈迦仏立像
誕生釈迦仏立像
誕生釈迦仏立像
誕生釈迦仏立像
如来立像
菩薩立像
菩薩半跏像
観音菩薩立像
観音菩薩立像
二仏並坐像
菩薩立像
観音菩薩立像
十一面観音菩薩立像
力士立像
力士立像
如来立像
釈迦如来坐像
薬師如来坐像
誕生釈迦仏立像
不動明王立像
勢至菩薩立像
阿弥陀如来立像(裸形)

観音寺

当館

当館

薬師寺

個人

個人

当館

当館

法起寺

興福院

神野寺

法隆寺

観心寺

金剛寺

当館

個人

個人

個人

個人

個人

光明寺

当館

園城寺

文化庁

薬師寺

当館

当館

浄土寺

◎釈迦如来立像

◎如来三尊像

◎如来三尊像

天部立像

如来立像

◎釈迦如来坐像

◎如意輪観音菩薩坐像

阿弥陀如来坐像

◎宝冠阿弥陀如来坐像

◎獅子

◎象

法明寺

当館

個人

兵庫県

当館

室生寺

当館

欣喜寺

當麻寺

個人

個人

【第7室】

◎千手観音菩薩立像
妙法院
(*平成三十年新指定国宝)

◎十一面観音菩薩立像
勝林寺

◎十一面観音菩薩立像
新薬師寺

◎十一面観音菩薩立像
当館

◎光背(二月堂本尊所用)

◎十一面観音菩薩立像
東大寺

◎千手観音菩薩立像
薬師寺

◎観音菩薩立像
園城寺

◎観音菩薩立像
観心寺

【第8室】

◎狛犬(二対)

◎天神坐像

◎義淵僧正坐像

手向山八幡宮

興喜天満神社

岡寺



◎義淵僧正坐像 岡寺

◎梵天立像

秋篠寺

◎伝教脱菩薩立像
秋篠寺

◎不動三尊像
新薬師寺

◎龍猛菩薩立像
泰雲院

◎地蔵菩薩立像
十市町自治会

◎明星菩薩立像
弘仁寺

◎准胝観音菩薩立像
文化庁

◎地蔵菩薩立像
大福寺

◎地蔵菩薩立像
新薬師寺

【第10室】

不動明王立像
当館

◎不動明王坐像
園城寺

◎五大明王像
当館

◎愛染明王坐像
当館

◎軍荼利明王立像
園城寺

◎大威徳明王騎牛像
当館

【第11室】

十二神将立像
当館

金剛童子立像
当館

狛犬
興喜天満神社

男女神坐像
当館

僧形神坐像
当館

女神坐像
当館

童子形坐像
当館

【第12室】

◎阿弥陀如来立像(善光寺式)

菩薩坐像
善光寺

帝釈天坐像
文化庁

◎十二神将立像(辰・未神)

(*5月6日まで及び5月29日より展示)

室生寺

文殊菩薩坐像

(*5月8日より27日まで展示)

法華寺



文殊菩薩坐像 法華寺

毘沙門天立像

(*5月29日より展示)

高尾地藏堂

【第13室】

如来倚像
当館

◎観音菩薩立像(二面)

如意輪観音菩薩坐像
当館

◎地蔵菩薩立像
当館

僧形立像
当館

◎十一面観音菩薩立像
当館

◎十一面観音菩薩立像
当館

◎蔵王権現立像(三軀)

破損仏像残欠コレクション
大峯山寺

※◎Ⅱ国宝、◎Ⅱ重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

❖ 特別展「国宝 春日大社のすべて」公開講座❖

■記念講演会

4月14日(土) 「御創建1250年 春日大社のすべて」
花山院 弘匡氏 (春日大社宮司)

■公開講座

4月21日(土) 「春日権現験記絵と解脱房貞慶」
高橋 悠介氏 (慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授)
5月12日(土) 「春日大社伝来甲冑の特質」
宮崎 隆旨氏 (元奈良県立美術館長)
5月26日(土) 「春日をめぐる神仏と造形」
清水 健 (奈良国立博物館学芸部工芸考古室長)
【時 間】 各回とも13:30~15:00(13:00開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 各194名(先着順)

- * 聴講無料 (聴講には入場整理券が必要です)
- * 12:00から講堂前にて、入場整理券 (お1人様につき1枚) を配布します。
- * 入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。
- * 入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

❖ 特別展「国宝 春日大社のすべて」関連イベント❖

■春日ウォーク ～行って楽しむ! 春日大社のすべて～

春日大社ゆかりの地に建つ奈良国立博物館。そこで開催される特別展「国宝 春日大社のすべて」をもっと楽しんでいただくためのイベントです。解説を聞きながら春日大社から奈良国立博物館までのルートを歩いて移動します。

【日 時】 5月13日(日) 12:00~15:00(予定)
【定 員】 30名(先着順、博物館HPから事前申込必要)
【解 説】 松村 和歌子氏 (春日大社国宝殿主任学芸員)、
吉澤 悟 (当館学芸部列品室長)
【集合場所】 春日大社 二之鳥居
【行 程】 二之鳥居 → 若宮 → 御本殿 → 飛火野 → 御旅所
→ 一之鳥居 → 春日西塔跡 → 春日東塔跡 → 当館新館玄関前(予定)
【参 加 費】 500円(春日大社特別参拝料)を現地にてお支払いいただきます。

※申込方法等の詳細は当館ホームページの「講座・催し物」→「催し物」のページからご確認ください。

◆「奈良博プレミアムカード」
「国立博物館メンバーズパス」のご案内

平成29年4月1日(土)より、当館を今まで以上にお楽しみいただける「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。

詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。当館観覧券売場へお問い合わせください。



◆奈良国立博物館賛助会

平成30年3月31日現在、一般会員(個人)54名、一般会員(団体)15団体、特別会員3団体、特別支援会員4団体のご入会をいただいております。
[一般会員(個人)] 吉田 夕加里 様(平成29年12月ご入会)

◆キャンパスメンバーズ

平成30年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部・京都外国語大学・京都外国語短期大学・京都教育大学・京都教育大学附属高等学校・京都工芸繊維大学・京都女子大学・京都女子高等学校・京都精華大学・京都大学・京都橘大学・近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科・嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学・四天王寺大学人文・社会学部・就実大学人文学部・帝塚山大学・天理大学・同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良学園大学・奈良文化女子短期大学部・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、龍谷大学・龍谷大学短期大学 (以上、五十音順)

【表紙写真解説】

重要文化財

鼈太鼓 (左方・龍)

木製 漆塗 彩色 漆箔
火焔縁高三九〇cm 最大幅三三六cm
総高六五八cm
鎌倉時代(十三世紀)
奈良 春日大社

鼈太鼓は雅楽のうち、舞を伴って行われる舞楽に用いられる大型の太鼓。本品は左方・唐楽用で、火焔縁に天に向かって昇るような雄渾な龍があしらわれる。逼真性の中に穏やかさを感じさせる龍の彫刻は、源頼朝(一一四七~九九)寄進との伝承と年代的にも矛盾しない。昭和五十一年に現在の鼈太鼓が奉納されるまで、現役で春日若宮おん祭に使用されたもので、経年の傷みが目立っていたが、平成二十七~二十八年度に全面的な修理が施され、面目を一新した。今回が修理後初のお披露目となる。

◆創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」にて6月10日まで展示

(当館学芸部工芸考古室長 清水 健)

「素材から探る仏像のひみつ」

奈良国立博物館では、この夏に修理完成記念特別展「糸のみほとけ—国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏—」を開催します。糸を素材とする織物や刺繍の仏像がテーマとなる本展覧会に関連して、今回の夏季講座では、木や金属・土・石などさまざまな素材で表される仏像に着目し、材料の調査・分析を通じて解き明かされる「みほとけのからだ」の秘密について、様々な研究分野の第一線で活躍の先生方をお招きし、ご講演を頂きます。

【開催日】 8月22日(水)～24日(金)

【主催】 奈良国立博物館

【会場】 奈良県文化会館 国際ホール
(近鉄奈良駅から徒歩約5分)

【受講料】 3,500円(会場費、テキスト代などを含む)

【定員】 600名

【応募方法】 往復はがき または
当館ホームページ応募フォーム

◆往復はがきの場合

往信用はがきに「夏季講座参加希望」とご記入の上、①氏名 ②ふりがな ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号 ⑥性別 ⑦年齢を明記してください。

返信用はがきにはご自身の宛名・住所を明記してください。

申込先：〒630-8213 奈良市登大路町50

奈良国立博物館 学芸部教育室

◆ホームページ応募フォームの場合

当館ホームページの夏季講座専用応募フォームから必要事項をご記入の上お申込みください。

【受付期間】 5月14日(月)～6月4日(月)必着

(ホームページは5月14日(月)10:00～6月4日(月)17:00)

*応募はいずれかの方法で、お1人様1回でお願いいたします。

*受付期間外のお申込みは無効とさせていただきます。

*応募多数の場合は抽選となります。

*6月15日(金)までに返信用はがきまたはメールにて受入の可否及び受講料の振込口座をお知らせいたします。

*お振込が完了した方のみ受講証をお送りいたします。

*スケジュール等の詳細は、チラシや当館ホームページにてお知らせいたします。

❖ 特別展「糸のみほとけ」開催記念特別企画 ❖

■オリジナル手芸作品 展示コーナー

応募いただいた手芸作品の写真を当館地下回廊で展示します。更に来館者投票上位30作品は、実物を展示いたします。

【募集期間】 6月11日(月)～7月6日(金)

《写真展示》 7月14日(土)～8月7日(火)

《実物展示》 8月8日(水)～8月26日(日)

※申込方法等の詳細は当館ホームページの「講座・催し物」→「催し物」内からご確認ください。

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■4月15日(日)

「高御座の造形の由来—天皇の即位と菩薩の階梯—」

樋笠 逸人(当館学芸部研究員)

天皇御即位に使われる玉座「高御座(たかみくら)」。特徴的な八角形の姿はなぜか、仏像を安置する厨子の形にも似ています。天皇と仏教との関係、奈良時代の華厳思想などから、その造形の歴史的背景に迫ります。

■5月20日(日) 「概説：中国仏像史」

松本 伸之(奈良国立博物館館長)

日本の仏教文化の源となった中国において、歴代にどのような仏像が作られたのか、通史的に眺めてみる機会はありません。ここでは、中国に残る実際の作例を通して、中国仏像の歴史を改めて俯瞰します。

■6月17日(日) 「綴織當麻曼荼羅の修理と転写の歴史」

北澤 菜月(当館学芸部主任研究員)

夏の特別展「糸のみほとけ」において修理後初公開される當麻寺の本尊「綴織當麻曼荼羅」は、奈良時代に當麻寺に安置されてから幾度かの修理や転写を経て今に伝わりました。その歴史をご紹介します。

■7月15日(日) 「文化財を科学するV」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

博物館は、文化財の収蔵・展示環境を整え、基礎調査を実施するとともに、必要に応じて修理を行っています。これら文化財を保存する取り組みについてお話しします。

■8月19日(日) 「裳懸座再考」

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

すわった仏像の台座には、着衣が台座をおおって垂れかかる裳懸座^{もかけざ}という形式があります。この裳懸座について、様々な作例から分析していきます。

■9月16日(日) 「古文書に見る中世後期の大和国」

佐藤 稜介(当館学芸部研究員)

“守護不設置”の国として知られる中世の大和国。寺社勢力の強い影響下に生きた人々は多くの古文書を遺しました。表情豊かな古文書の世界を通して、中世・大和国の一端をご紹介します。

【時間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 194名(先着順)

*聴講無料(入場には入場整理券が必要です)

*当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お一人様につき一枚)を配付します。

*入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

展示品の みどころ

かすがみょうじんようごう 春日明神影向図

重要文化財
絹本着色
縦61.1cm 横33.7cm
鎌倉時代 正和元年(1312)
大阪 藤田美術館



本図は貴族が夢に見た春日の神の姿を、絵師に描かせたものである。絵の下方に貼り付けられている紙に、本人がその経緯を記している。

春日社を信仰した鎌倉時代の貴族の一人である鷹司冬平(1275～1327)は、夢中、御車に乗った東帯姿の春日大明神が自邸の北側の庭に影向する様を拝した。冬平がひざまづくと、大明神は銀色の袋に包まれた書を手渡したのでこれを受け取った。すると目が覚め夢であったと気付いたという。

この時の大明神の姿を、宮廷で活躍した当世一流の絵師である高階隆兼に描かせたのがこの絵である。上方の春日社本地の五仏は、夢には見なかったが絵画化に際し描き加えられたという。

闇深い深夜の庭に御車が留まっているが、霞に紛れ神の姿はすべて見えない。しかし御車の下の地面は、静謐な銀色に輝き、そこに神が現れたことを知らせる。夢現のあわいのうちに神が影向する雰囲気を見事に描き出した傑作である。

北澤菜月(当館学芸部主任研究員)

◆5月22日(火)～6月10日(日)
創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」にて展示

てんじんざぞう 天神坐像

重要文化財
木造・彩色
像高94.9cm
鎌倉時代
正元元年(1259)
奈良 興喜天満神社



奈良県桜井市の興喜天満神社の主神像。同社は古来靈験の称えられた長谷寺の鎮守であった。東帯姿の男神像で、像内体部に墨書銘があり、正元元年に善阿弥陀仏という人物の勧進によって造立された与喜大明神の御正体であるという。像内頸部には六花形ないし六葉形の銅鏡が納入され、鏡面に十一面観音菩薩立像が線刻される。平安時代末期ないし鎌倉時代初頭には、天神の本地は十一面観音と定まっていた。この線刻十一面観音像は長方形の方座に立つが、ここには長谷寺本尊十一面観音菩薩像のイメージの投影を読むことが可能だろう。さらには鎌倉時代前期の成立と考えられる『長谷寺靈験記』には、天禄二年(971)に長谷寺僧行円が加賀白山御前峰に参詣した際、白山妙理権現の本地である十一面観音の影向を見、その頭光の中から飛来した鏡を懐に入れて寺へ帰り、山内に権現を祀ったとする説話が見える。本像納入の鏡に刻まれた十一面観音菩薩像には、以上のような複数の性格が重層的に重ね合わせられているのだろう。

像の作風は男性的で、烈しい忿怒相ながら品を失わない。鎌倉時代中期の優れた作品であり、慶派の流れに属する仏師を想定するのが筋であろう。

岩田茂樹(当館上席研究員)

◆なら仏像館名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(4月～6月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時
・金・土曜日は、特別展「国宝 春日大社のすべて」は午後7時まで、名品展は午後8時まで開館
※入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 特別展 国宝 春日大社のすべて

	一 般	高校・大学生	小・中学生
個 人	1500円	1000円	500円
団 体	1300円	800円	300円

※団体は20名以上です。
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。
※本展の観覧券で名品展(なら仏像館・青銅器館)もご覧になれます。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は、当日券を400円でお求めいただけます。

■休館日／毎週月曜日、ただし4月30日(月)は開館
★無料観覧日(名品展のみ)／
5月5日(こどもの日)、5月18日(国際博物館の日)

■観覧料金 名品展

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	520円	260円	無 料
団 体	410円	210円	無 料

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額になります。
※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもといっしょ割引)。



〔交通案内〕近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

 **奈良国立博物館**
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ <http://www.narahaku.go.jp/>

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は92円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。